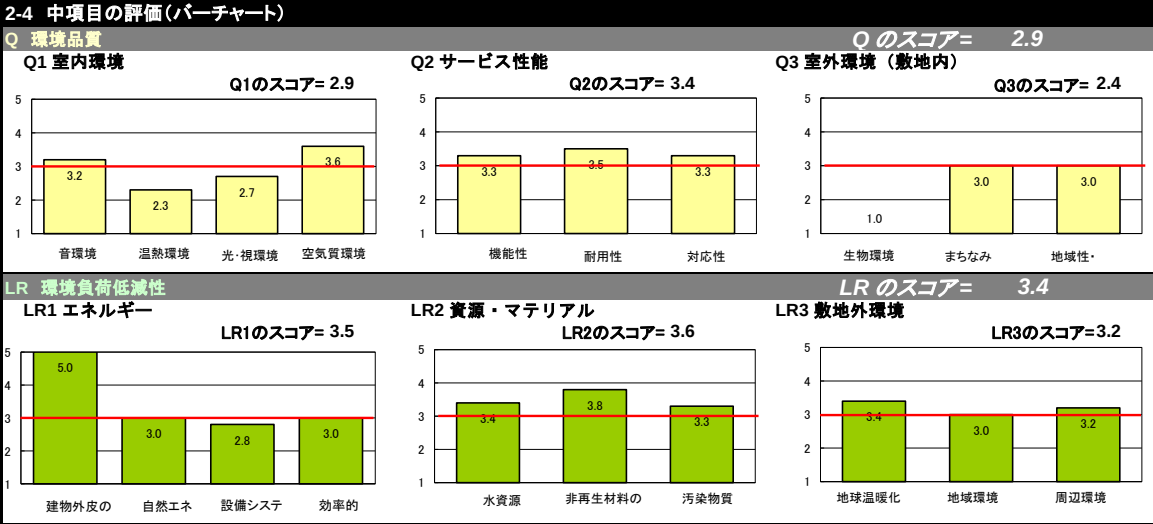
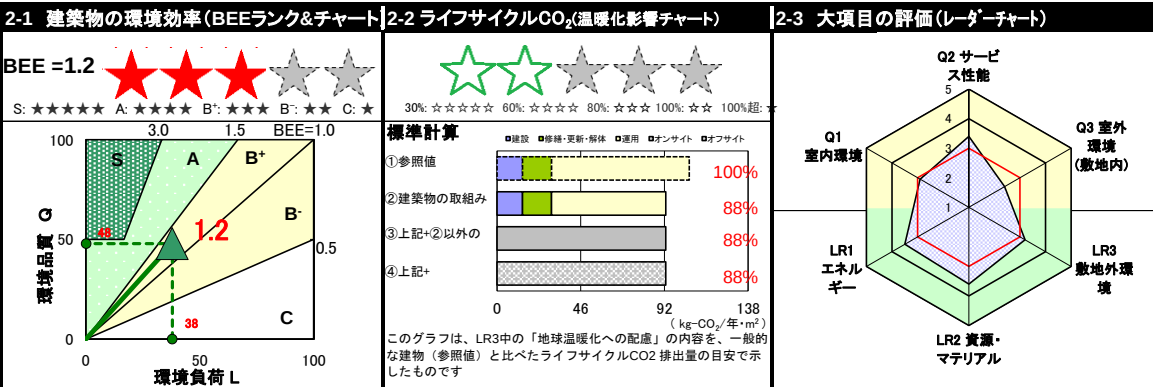




評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)アドバンス・スクエア刈谷Ⅲ	階数	地下0階地上4階
建設地	愛知県刈谷市中山町1丁目43-46-1、46-3、54-2、事務所1丁目1-13、101-3	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	360 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,080 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2026年3月 予定	評価の実施日	2024年12月11日
敷地面積	2,472 m ²	作成者	山田英樹
建築面積	1,155 m ²	確認日	2024年12月11日
延床面積	4,093 m ²	確認者	山田英樹
			



3 重点項目	
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
3.4	1.0
	
②資源の有効活用	④地域材の活用
3.6	1.0
	
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	
8.4 %	
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	
0.0 %	
<外装材に使用した地域性のある材料>	
なし	
<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	
なし	

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}}$ × 100

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
【仮称】アドバンス・スクエア刈谷Ⅲ

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄							全体	
配慮項目	独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体		
Q 建築物の環境品質										2.9		
Q1 室内環境						0.40			-	2.9		
1 音環境				0.1	3.2	0.15	-	-	-	3.2		
1.1 室内騒音レベル				3.0	3.0	0.40	-	-	-			
1.2 遮音				0.4	3.0	0.40	-	-	-			
1 開口部遮音性能				-	3.0	0.60	-	-	-			
2 界壁遮音性能				-	3.0	0.40	-	-	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-	-	-	-	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-	-	-	-	-			
1.3 吸音				-	4.0	0.20	-	-	-			
2 温熱環境				0.3	2.3	0.35	-	-	-	2.3		
2.1 室温制御				0.5	3.7	0.50	-	-	-			
1 室温				3.0	3.0	0.38	-	-	-			
2 外皮性能				3.0	3.0	0.25	-	-	-			
3 ゾーン別制御性				3.0	5.0	0.38	-	-	-			
2.2 湿度制御				3.0	1.0	0.20	-	-	-			
2.3 空調方式				3.0	1.0	0.30	-	-	-			
3 光・視環境				0.2	2.7	0.25	-	-	-	2.7		
3.1 昼光利用				0.3	1.8	0.30	-	-	-			
1 昼光率				3.0	1.0	0.60	-	-	-			
2 方位別開口				-	-	-	-	-	-			
3 昼光利用設備				3.0	3.0	0.40	-	-	-			
3.2 グレア対策				0.3	3.0	0.30	-	-	-			
1 昼光制御				5.0	3.0	1.00	-	-	-			
3.3 照度				3.0	4.0	0.15	-	-	-			
3.4 照明制御				3.0	3.0	0.25	-	-	-			
4 空気質環境				0.2	3.6	0.25	-	-	-	3.6		
4.1 発生源対策				0.5	4.0	0.50	-	-	-			
1 化学汚染物質				3.0	4.0	1.00	-	-	-			
4.2 換気				0.3	3.3	0.30	-	-	-			
1 換気量				3.0	4.0	0.33	-	-	-			
2 自然換気性能				3.0	3.0	0.33	-	-	-			
3 取り入れ外気への配慮				3.0	3.0	0.33	-	-	-			
4.3 運用管理				0.2	3.0	0.20	-	-	-			
1 CO ₂ の監視				3.0	3.0	0.50	-	-	-			
2 喫煙の制御				3.0	3.0	0.50	-	-	-			
Q2 サービス性能				-	-	0.30	-	-	-	3.4		
1 機能性				0.4	3.3	0.40	-	-	-	3.3		
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	3.3	0.40	-	-	-			
1 広さ・収納性				3.0	4.0	0.33	-	-	-			
2 高度情報通信設備対応				3.0	3.0	0.33	-	-	-			
3 バリアフリー計画				3.0	3.0	0.33	-	-	-			
1.2 心理性・快適性				0.3	3.3	0.30	-	-	-			
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0	4.0	0.33	-	-	-			
2 リフレッシュスペース				3.0	2.0	0.33	-	-	-			
3 内装計画				3.0	4.0	0.33	-	-	-			
1.3 維持管理				0.3	3.5	0.30	-	-	-			
1 維持管理に配慮した設計				3.0	4.0	0.50	-	-	-			
2 維持管理用機能の確保				-	3.0	0.50	-	-	-			
2 耐用性・信頼性				0.3	3.5	0.31	-	-	-	3.5		
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	3.8	0.48	-	-	-			
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	4.0	0.80	-	-	-			
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20	-	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.4	0.33	-	-	-			
1 躯体材料の耐用年数				-	3.0	0.23	-	-	-			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				-	4.0	0.23	-	-	-			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				-	5.0	0.09	-	-	-			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				-	3.0	0.08	-	-	-			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				-	3.0	0.15	-	-	-			
6 主要設備機器の更新必要間隔				-	3.0	0.23	-	-	-			
2.4 信頼性				0.1	3.2	0.19	-	-	-			
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-			
2 給排水・衛生設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-			
3 電気設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-			
4 機械・配管支持方法				3.0	4.0	0.20	-	-	-			
5 通信・情報設備				3.0	3.0	0.20	-	-	-			

3 対応性・更新性			0.2	3.3	0.29	-	-	-	3.3	
3.1 空間のゆとり			0.3	4.0	0.31	-	-	-		
1	階高のゆとり	②	階高3.7m 壁長さ比率=0.207	4.0	0.60	-	-	-		
2	空間の形状・自由さ			4.0	0.40	-	-	-		
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	-	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.1	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性			3.0	0.17	-	-	-		
2	給排水管の更新性			3.0	0.17	-	-	-		
3	電気配線の更新性			3.0	0.11	-	-	-		
4	通信配線の更新性			3.0	0.11	-	-	-		
5	設備機器の更新性			3.0	0.22	-	-	-		
6	バックアップスペースの確保			3.0	0.22	-	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)			-	-	0.30	-	-	-	2.4	
1 生物環境の保全と創出			独自③	1.0	0.30	-	-	-	1.0	
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	3.0	0.40	-	-	-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	3.0	0.30	-	-	3.0	
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	独自④		3.0	0.50	-	-	-		
3.2	敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.4	
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	-	3.5	
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.78	3.0	5.0	0.30	-	-	5.0	
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.20	-	-	3.0	
3 設備システムの高効率化			BEI=0.83	3.0	2.8	0.30	-	-	2.8	
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20	-	-	3.0	
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-		
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-		
4.2	運用管理体制			3.0	3.0	0.50	-	-		
集合住宅の評価				-	-	-	-	-		
4.1	モニタリング			-	-	-	-	-		
4.2	運用管理体制			-	-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	-	3.6	
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	3.4	
1.1 節水			省水型機器を使用	3.0	4.0	0.40	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-		
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-		
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.8	0.63	-	-	3.8	
2.1 材料使用量の削減			② 独自	-	2.0	0.07	-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.24	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				-	3.0	0.20	-	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				石膏ボード・壁、ビニル床タイル、磁器質タイル・床	3.0	5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	3.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				躯体と仕上材が容易に分別可能	3.0	5.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.3	0.22	-	-	3.3	
3.1 有害物質を含まない材料の使用			有害物質を含有しない建材種別が2つ	3.0	4.0	0.32	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68	-	-		
1	消火剤			-	-	-	-	-		
2	発泡剤(断熱材等)			-	3.0	0.50	-	-		
3	冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-		
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	-	3.2	
1 地球温暖化への配慮			①	-	3.4	0.33	-	-	3.4	
2 地域環境への配慮				0.3	3.0	0.33	-	-	3.0	
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.50	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.2	0.25	-	-		
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-		
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-		
3	交通負荷抑制	独自	自転車置場設置、駐車スペース確保、荷捌用駐車場確保	-	5.0	0.25	-	-		
4	廃棄物処理負荷抑制			-	2.0	0.25	-	-		
3 周辺環境への配慮				0.3	3.2	0.33	-	-	3.2	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-		
1	騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-		
2	振動	独自		-	-	-	-	-		
3	悪臭			-	-	-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-		
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-		
2	砂塵の抑制			-	1.0	-	-	-		
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-		
3.3 光害の抑制				0.2	4.4	0.20	-	-		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		光害対策ガイドラインのチェックリストを過半を満たす	-	5.0	0.70	-	-		
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-		

重点項目スコアシート

(仮称)アドバンス・スクエア刈谷Ⅲ

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新編)2016年版+あいも版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点		全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策					3.4
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.4	0.10	3.6	
② 資源の有効活用					
Q2-2	耐震性・信頼性	3.5	0.09		
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09		
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19		
③ 敷地内の緑化					1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:8.4%/建物緑化:0%	
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0	
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)アドバンス・スクエア刈谷Ⅲ

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 シンプルで良好な室内環境の確保する。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 化学汚染物質の発生しない仕上げ材を採用し、室内環境の向上を図る
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 階高H=3.7以上を確保し、壁長さ比率0.2より空間の形状・自由度を考慮する。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 見通しの良い環境とし、防犯性に配慮した計画。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 設備システムの効率化により、建築物の環境負荷を低減。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 リサイクル資材を活用する
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 光害に配慮し、敷地外への影響の低減を図る。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。